

◆お弁当といえば、私はおむすび派。おむすびに、少しおかずがあればお腹も気持ちも大満足です。今はおむすびも進化して、いろいろだなあとか、子供がはじめてつくった塩味のまんまるおむすびは光っていたような気がしたり。おむすびにすると、皆の手がのびてあつという間になくなつてしまふのは何故？　そんなことを考えながらのおむすびづくり。まんまる塩むすびに桜の塩漬をのせて春つぼく、葉まきおむすびや竹の子ごはんをおむすびにして、旬と春を満喫しよう。

上北地域の松林幸子さん



◆高校生の頃からお弁当は自分で作つていて、3才年下の弟が高校生のときは、弟の分も一緒に作りました。容器はプラスチック製の長方形の大きめタイプ一段。1人分も2人分も同じと思ってそれなりに。オカズとご飯半々くらいにしていたら、「オカズ少なくていいからご飯多めに」と言われ、少しラクに。オカズに困った時は焼ソバに野菜や卵をまぜてごまかしたり……。今思えば、いくら「ヤセの大食い」の弟でも、早弁して昼は学食で食べて……だったのは量が足りなかつたんだなあと。もつとギュウギュウに詰めればよかつたんだと。あの頃は気付かなかつたもんない。

つがる市の伊藤明美さん



五所川原市の江良博子さん

日まで、もう少しよろしく、とい
気持ちでいる。

◆お弁当は毎日なので、基本的には前日の残り物を入れるので、前日頑張らないといけないです。肉か魚、卵が1品、生野菜と煮物を2品、果物を1品入れるために頑張ります。子供のお弁当作りの時は、冷凍食品を使つたことがあります、味が濃く、やめて!!と言われ、やはり手作りしています。

八戸市のNNさん

八戸市の長谷川亞矢乃さん

てきて、おにぎり作りにも終わりが
見えてきた今は、ちよつぴり寂しさ
も。よしつ！ 1つだけになつた主人
のお弁当に愛情をたつ。ぶり込めて
♥：：と思いつつ、今日もレンジの音
が響き渡る朝の台所です（笑）

六戸町の金沢ケ美

「当」に見えるから不思議です。特に凝った料理でもない、ごくごく普通のおかずなのにね。自分用にも同じ内容でお弁当を作ります。こちらは、タツパーに。そうすると、これまた不思議。曲げわっぱの半分も「美味しそうに見えないお弁当」になるのです。

◆娘が幼稚園の時、毎週水曜日がお弁当の日でした。少食の娘は、「お弁当箱小さくして!」とか、「ご飯は少なめに!」とか、「野菜はいっぱい入れても大丈夫!」とか何かと注文が多く、キヤラ弁を作つてあげようかと思つても、キヤラ弁のキヤラクターはだいたい「はんで作る」ので、キヤラ弁とまではいかなく、その中でも、季節が感じられるようなお弁当を作つていました。小学校にあがつたら、ほぼお弁当がないので楽ちんです。少食の娘に対応して作つていたのがなつかしいです。

南部町の佐々木弥生さん

◆娘が幼稚園の時、毎週水曜日が弁当の日でした。少食の娘は、「弁当箱小さくして！」とか、「ご飯は少なめに！」とか、「野菜はいっぱい入れても大丈夫！」とか何かと注文が多く、キヤラ弁を作つてあげようかと思つても、キヤラ弁のキヤラクターはだいたいごはんで作るので、キヤラ弁とまではいかなくその中でも、季節が感じられるよなお弁当を作つていました。小学1年にあがつたら、ほぼお弁当がないで樂ちんです。少食の娘に対応して作つていたのがなつかしいです。

◆「お弁当」で思い出す」といえば、もう25年くらい前、長男が高校に入学し、毎日お弁当を持参するようになつた頃。朝早く起き、栄養のバランスや彩りを考え、フタをあけた時の子供の顔を思い浮かべながら、せつせとお弁当作りに励んでいました。でも、料理本を買い込んだり張り切り過ぎたりして、息切れしてしまつたのでしよう。半年ほどして長男から「だんだんおかずが減つてご飯の量が多くなってきたね」と指摘され、苦笑してしまいました。そのうち、友達と一緒に学校の購買部で買うようになります。今思ふと、あの大切な時期、もつと頑張つておけばよかつたと後悔しています。

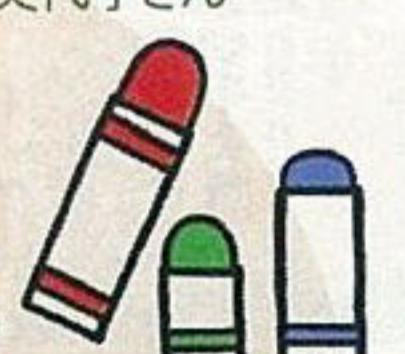
八戸市の小野寺啓子さん

組合員の交流コーナー

✿子ども達が幼かった頃です。共働きの私が夜勤を終えた日曜日の朝、子ども達を連れて夫が車で迎えに来ました。どこか花見に行こうと言うのです。そのまま、桜のきれいな公園に直行しました。今まで食事を作ったことのなかった夫が弁当を作ってきたのです。おにぎりと玉子焼きだけでしたが、初めて食べたせいいっぱいの弁当はシンプルでオイシイお弁当でした。たった一度の弁当でした。

八戸市の井畠美代子さん

てーまは…



お弁当 といえば…

北国に春到来です！「今までとは、環境が変わって…」という方もいることでしょうね。お弁当も、そんな一つかもしれません。お弁当を作つて、自然の中に足を運び、春の日差しや息吹を感じてみるというのもいいかぎれませんね…

◆高校生の頃、私は母の作るお弁当が好きでした。朝早い時間に出発するにもかかわらず、毎日お弁当を作ってくれました。時々、ミツフィーチやんやキティーちゃんの形をしたおにぎりも作ってくれました。母の作ったお弁当を最後に食べたのはいつだろ？：と思しながら、毎日自分のお弁当を作っています。

八戸市の村館侑以さん

◆小学生の頃（5年生からはパンと脱脂乳の給食があつたような気がします）、学校の前の魚屋さんから昆布のつくだ煮やするめのつくだ煮を5円分、10円分と買って袋に入れてもらい、おかげにしていた時期

◆弁当等を作るきっかけたのは、もう20年以上です。入院して、病院でうんざりしていたおにぎりを作つてくれたり、おしゃべりを持つてきてくれたり、とても嬉しかったことが頭に残り、元気になつたら私も誰かに恩返ししようと用ひつたのが今の弁当作りにつながつています。2ヶ月に1回くらい、知り合いの老人にボランティアで弁当作りをしています。とても感謝され、美味と言つてくれて頑張つた結果、こんなに沢山になつてしまいまし



*今回の「組合員の交流コーナー」は、「はばたき」レポーターさん、および、「はばたき編集委員会」のメンバー等にご協力（寄稿、投稿）をいただき、紙面を作成しています。